

こうしてみると、いたって苦勞しているはずの講義ではらくをし、らくなはずの演習は、長い眼でみれば苦勞なしに授業でき

ないのではないのか、そしてそのことを学生はよく知っているのではないのか、そんなことを考えるこの頃である。

自主ゼミの一年をふりかえって

諸 岡 信 一

編集子から、一般教育研究第5号の談話室に投稿のおさそいをうけました。二年間担当を続けて来た責任もあり、また今年担当をおりる者として、少くとも食品学科の学生と自主ゼミを共にした一年間の感想と将来への希望の一端をこの機会を利用して気づいたままに述べさせてもらいます。

収穫祭の前日、私の研究室を訪づれた自主ゼミ参加学生が、[＊]先生、3C6にいます、といい残し、よびとめる暇もなく立ち去っていきました。追いかけるように私は『3C6』に行きますと、そこには市民の諸氏に協力してもらったアンケートが集計され、『食糧確保と食生活の安全性』と題する30枚ばかりの図や表が作られ、掲示の作業が始められていました。

いつもと異って、今日は、密柑、ビスケットが私の席の机上にあります。いつのまにかこんな柔かな雰囲気がこの自主ゼミに培かわれていたのです。

この雰囲気醸し出すために色々の工夫を私なりにしてきました。共同作業を進めるうえにどうしても必要があったからです。

作業を進めて行く彼等の顔には、無言のまま、共同作業とその成果を前に、私に語りかけようとしています。その諸動作で喜びが感じられます。

収穫祭の行事はどんどん進み、学内自主

ゼミ討論会が始まりました。これにも全員で参加しています。準備不足は不馴れの産物として許さなければならぬでしょう。

発表の段になると自分達が総意で造ったものだ、力を合せて訴えようとする声が聴こえてくる気がします。

展示の場でも、『先生、見学者が100名越えました。一寸難かしかっただらしいです』とはにかんだ、はずんだこんな声が彼等の口から自然にとび出て来ます。

二年生の後期が始ったばかりの時、この学生達と私の会話が始まりました。何の質問をしても口は閉じたままでした。彼等の気持を柔げるための手段に、お茶をのみながら、話しを合わせることに懸命な努力をしなければなりません。誘導するための質問は今考えてみると『ネコに小判』の類で、あったようです。アンケートを集計するような時期になっても、先生、このアンケートの正解はどれですかと問いかける者がいます。まだ彼等には小中高の〇×式採点が頭の中に焼印の傷として残されています。この焼印の傷の治療から始めなければなりません。この傷はそんなに浅くて安易に治療出来るものではないことを知りました。それが自主ゼミの一つの柱ではないかと私は思っています。

このような意識の彼等が今では見学者の前に立っても堂々と図表の説明をし、胸を

張って学生仲間に説く、この姿が生れてでくこと、これが学生諸君への私の大きな期待であり、また私の指導如何の是非を問われる宿題であったのです。

一方学生諸君には彼等の創造活動の第一歩が始められたといえます。

それは丁度、自主ゼミ参加者が私と一年

前のこの時期に約束したものを果したことをともに喜び得ることを感謝し、学生諸君の若い力による限りない創造と飽くことのない力強い真理の探求に励んでもらうことを希って自主ゼミ担当の任を放してもらいます。

外国語自習室の開業にあたって

益 田 出

もともと外国語自習室なるものの構想は、45年に一般教育の改革案を出したとき、外国語、とくに英語の改革案をまとめる過程で打ち出されたものである。改革案の大きな柱は、学生による自由選択と自学自習ということであった。それは、大学における学問研究の多様性、英語の国際性、時代の要請、学生の質的多様性など、すでに現在の、そしてこれからの大学で求められるさまざまな要件に適合するには、従来の、テキストの講読を主体とする英語教育のみでは不十分であるという認識に立つものである。これは目新しい考えでも何でもなくて、言語および言語教育の本質に即した至極当然な認識であって、中学校から初まる英語の学習を大学まで一貫してあるべき姿に立ちかえらせようということにはかならない。大学の外国語教育では、とくにテキストの講読が中心を占めるのは当りまえであるが、それと同時に、言語活動の他の面、つまり話したり、聴いたり、書いたりする能力を養成しなければならないことも、これまた当然であろう。その中で、とくに音声面の学習は反復練習を必要とするばかりか、上達に個人差が甚だしく、し

たがって個別指導・学習の必要性が高いうえに、素材の多様性というようなこともあって、従来の形態のクラスでは十分な効果をあげえないのが実際であった。そこで外国語教育の、とりわけ音声面の訓練に多様性を与え、限られた授業時間内でなく、学生各人の都合の好い時間に自由に、いくらかでも反復して学習することができるように、思い切って機械化した設備を構想したのである。この設備によって真の成果を挙げるためには、まず周到に計画された教材を準備すること、教室の授業と関連させて教材の選択について教師が適切な指導をすること、そして何よりも重要なことは、学生が自発的かつ組織的にこれを利用することが必要であろう。設備自体は、従来のLL装置と大差のない器機からなるものであるが、主たる目的が学生の自学自習にあることから、個々のブースが別々に作動するようになっており、部屋そのものも、固苦しい教室というのではなくて、親しみやすく、くつろいだ気分で自習ができる雰囲気の一部屋に工夫してある。

先にも述べたように、この自習室は、外国語教育改革案の一環として構想されたも